

ママサポートえぷろん 《第 63 号》

ぽけっと

発行 2015年 3月 20日
編集 特定非営利活動法人
ママサポートえぷろん事務局
発行責任者 帯谷 昭子

認知症介護実践者研修を終えて

グループホームうらら花 介護主任 吉田圭介

1月25日～30日の5日間、札幌市で開催された認知症介護実践者研修に行かせていただきました。通常の研修は4日間(9:00～19:00くらい)で行われるものでしたが、今回は冬の交通事情を考慮し1日の講義や演習時間を短くし(9:30～17:00くらい)、その分日程が1日伸びるという良いんだか悪いんだか・・・といったような感じから始まりました。初日のみ飲みに行ってしまいました・・・すみません。

この研修に旅立つ前、この研修から帰ってくると目が輝いて帰ってくる・・・とか、初心がよみがえるなど・・・いろいろ聞かされていましたが、果たして自分は今までの皆さんの様に目を輝かせて帰ってくることは出来るのだろうか？大丈夫か？と自問自答しつつ研修に参加してきました。

今回の研修内容は、認知症介護の理念の構築から始まり、生活の質の保障とリスクマネジメント、生活障害としての認知症の理解、若年性認知症の人の支援、医学的理解、心理的理解、家族の理解と支援、人的・住居・生活の各環境を考える、認知症の人とのコミュニケーションなどさまざまな講義や合間に行われる演習が行われ、全道各地から58名の特養や老健、デイサービス、グループホームなど様々な職種の方たちが集まり、グループ討議や事例検討の際には、それぞれが違った意見や考え方を聞くことができとても参考にすることが多くありましたし、自分自身の認知症に対する考えや理解度がまだまだだなと再確認させられることもありました。

また、日ごろそれぞれが働いてる中での体験談や問題点、取り組みなどに関しての情報共有も同じグループで一緒だった仲間や外部実習で一緒だった仲間と行うことができたのでとても良い機会となりました。

その後は自施設での職場実習を2週間行うことになりました。今回、職場内実習を行うにあたり「一人ひとりの認知症状の正しい理解を深めて、チーム皆で情報を共有し毎日のケアに活かす」をテーマとし、その上で一人の利用者の方をケースに選び、その方の視点や考えに立ち代り本当にその人らしい生活が送れるように援助が出来ているのか？行動や考え、思いを妨げていないか？など今の現状を考え、思うことをアンケートとして実施し様々な意見や思い、考えをスタッフから集めることが出来ました。

今回のアンケートを実施するにあたり、スタッフ一人一人が日ごろ提供しているケアについてやその人らしさなどについて、客観的に考える良い機会になったのではないかと考えています。今回は1人の利用者の方をモデルとしましたが、今後もう一人、もう一人とうらら花で生活しているみなさんについて、改めてアセスメントし直しさらに良いケアや楽しい生活が送ることができるような援助方法についてスタッフ一丸となり取り組んでいかなければいけないのではないかと感じています。

これからも「安心して楽しく生活のできる家」となるように日々努力していきたいと思えます。

とても長くなりましたが、長期間にわたり研修に行かせていただきまして本当にありがとうございました！

働きやすい職場を目指し…

事務局

ママサポートえぷろんでは、【働きやすい職場】を目指し、福利厚生の充実に取り組んでいます。その中のひとつ【休暇】について。制度上では育児休暇、介護休暇、傷病による長期休業に対する保障などが定められていますが、実際のところはでしょうか。制度を利用したとしても、なんとなく肩身が狭いような…、周りの職員に申し訳ないような…。果たして仕事に復帰できるのだろうか…。そんな思いを経験した方が大多数だと思います。ママサポートえぷろんでは、「そんな気遣いなんてしなくていいから、ゆっくり休んで！」と、余計な不安が少しでも軽くなるよう、また、大威張り(?)で休暇が取れるような環境作りを意識しています。

福利厚生制度の意味である、【労働者やその家族の健康や生活の福祉の向上】を目指し、今後も職員が気持ち良く働けるような職場作りに取り組んでいきたいと考えています。



社会とのつながりを感じて

生活サポートのひら 堀井 美紀

随分と前の話しになりますが、以前にいた会社に、子供を妊娠したと報告すると「おめでとう」とは言われましたが、それとは反対に、「妊婦だから力仕事はあまり…」「夜勤が出来ない…」「仕事を組むと負担が増える…やりづらい…」など、徐々に職場の雰囲気が悪くなり始めました。

仕事自体は好きだったのですが、職場の妊婦に対する配慮が明確ではなく、私自身どう立ち振る舞えばよいのか悩み、上司に相談しても個人任せな状態で、私がやっかい者のような存在に感じる場面が多くなり仕事を辞めた経験があります。

そんな経験をしていたので妊娠を今の職場で報告するのはとても不安な気持ちでいましたが、上司や同僚の温かい言葉や利用者さんの笑顔、女性が多い職場と言うこともあり、出産経験談やお孫さんが生まれたときの様子や病院情報など、気さくに話していただき、不安な気持ちが軽くなってゆくのが感じられました。

それから私は育児休暇を取ることになるのですが、今の職場では私が2人目ということもあり育児休暇後の復帰の様子なども見ることが出来ていたので不安も和らぎました。また、育児休暇の取得のタイミングや復帰後の仕事内容や勤務時間の調整を私自身から相談するより、上司の方から産前産後の休暇、育児休暇、仕事の復帰のタイミングや勤務時間の提案など、事細かく相談に乗っていただき短時間勤務の希望も快諾してくれて、13年ぶりでしたが安心して出産することが出来ました。

どんな時でも相手の気持ちになって一緒に考える。今回、育児休暇を通して改めてママサポートの良さを実感しています。

職場復帰して3ヶ月が過ぎ忙しい日々ですが、また社会とのつながりを感じながら仕事ができる喜びを感じています。理事長はじめスタッフの皆さんにはいろんな場面でサポートいただいて感謝しています。





「最終回」 × 「福祉と野球」 × 「前進」

幕別町 茂木 翔平

年間シリーズ 最終回

「平成26年」が終わり、4月からは新年度が始まりますね！！昨年、大変だった方も、嬉しいことがあった方も、気持ちを切り替え、新たな飛躍に向けて頑張っていきましょう！！と、自分に言い聞かせております今日この頃…。

終わりといえば、私が担当してきました「26年の年間シリーズ」も最終回となりました。私個人が勝手な観点で書いたものを、他者に読んでもらうという経験は今までなかったもので…賛否両論あるとは思いますが、その件に関しましては、事務局の方をお願いいたします。

さてさて、私が送ります最終回のテーマは「福祉って？」です！！

私は、人付き合いが苦手で、勉強もできる方ではありません。人に自慢ができる事もないし、好かれるような愛嬌ありません。しかし、なぜか？福祉の仕事に興味を持ち、今現在も続けられているのか？それは前回の「シリーズの第3回」に書いた「正解がない」が一番の理由だと思います。さらに、この仕事は次から次へと難問が∞に出てきます。支援者に大切なのは、「見ないふりをしない」こと。対応が思うようにいかなくても、それが結果的に解決できなかったとしても、「それを問題として取り上げることができたのか？対応を試みたのか？」が有る無いでは、全く意味が違います。

私は、現在の職場に勤務することで、以前にも増して「チーム」の重要性に気付くことができました。自分も含め、利用者も働く仲間も「ロボット」ではない…。向き合う相手も人だからこそ、気持ちを理解し、寄り添うことができると思っています。中でも、「チームワーク」は特に重要で、支援に対して同じ方向を向いているか？を確認する必要があると感じている。

例えるなら、「利用者＝対戦相手」、「支援者＝自軍選手」、「施設長＝監督」、「理事＝スポンサー」。まさに野球。利用者が入場して試合開始、支援者チームと施設長はミーティング（戦略会議）で情報確認。利用者の動きに応じて対応していくが、相性や状況に応じて支援者（選手）を変更することも必要になる。支援リーダー（キャプテン）は、過去の対戦経験を活かし、後輩（新米選手）に指導や助言をし、同じ現場（球場）で活躍できる支援者（選手）として教育していかなければならない。また、理事（スポンサー）は、それぞれの実績に対して評価をし、それに見合った昇給等（契約交渉）をする。

「福祉」という事業も、それぞれの役割を、個々が責任をもって臨まなければ、「サービスの質」は向上していきません。まずは、自分のポジションを確認し、「何をしなければならないのか？」に向き合うことで、新しい一歩になるかもしれません。私自身も「全員野球（福祉）」ができるよう、日々精進していきたいと思っております。一年間、ご清聴に感謝いたします。



いろは坂

用心しましょう

朝刊を開く。今日もまた、その手の見出しが目に入る。

もう見慣れてしまった、高齢者が現金をだまし取られる事件だ。今回は、なんと、3000万円だ。困っている息子を助けようと、数回にわたって息子の代理だという見知らぬ男に手渡したという。

「はあ」と、私はため息をつく。そして、どこの誰かもわからない男に、路上で札束を渡してしまう心理をおもっ。

相手は、俳優よりも上手にセリフをしゃべるのだろう。そして最後には、かわいい息子を助けるためには、そうするしかないという気持ちにさせてしまうに違いない。

それにしても、皆さんが、自由になるお金をこんなにたくさん持っていることに、驚かされる。犯人は、きっとそんな人間的をしばって連絡してくるのだろう。

広井 数子

そう考えると、私は安心だ。「本物の子にも孫にも振り込めず」

新聞紙上で最近見かけた川柳だ。幸か不幸か、ばっちり共感できる。

「俺は、困ったときは、直接来るからね。おかしな電話なんかにはひっかかるんじゃないよ」

私の本物の息子は、真顔でそう言う。「大丈夫、知らない人には一円も渡さないから」そう言いながらも、そのうち息子の顔を忘れてしまって、よその男に「これだけでいいかい」なんて、なけなしの金を渡してしまうかも知れない。不安だ。

周りのすべてを疑い、自分をも心配しながら暮らすのは、少々疲れる。



写真館

in うらら花



NPO 法人

ママサポートえぶるん

会 員 数

- ・個人会員 34人
- ・利用会員 31人
- ・賛助会員 94人

平成27年3月20日現在

特定非営利活動法人(NPO)

ママサポートえぶるんは民間非営利活動団体です。

会員の皆様の会費と寄付により運営しております。皆様の支援をよろしくお願ひします。